

お風呂場での救急に注意しましょう

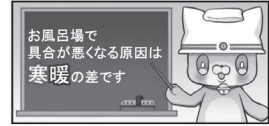
11月から3月にかけて、冬の寒い時期になると、お風呂場での高齢者の死亡事故が多くなります。

予防するには…

- ▽お風呂に入る前に、脱衣所や浴室を暖めておきましょう。
- ▽熱いお湯は避けて、長湯しすぎないようにしましょう。
- ▽誰かに声を掛けてから入浴しましょう。一緒にお住まいの方は、時々声を掛けましょう。
- ▽飲酒をしたときは、入浴を控えましょう。

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部警防課(☎282-2153)

みんなの予防救急



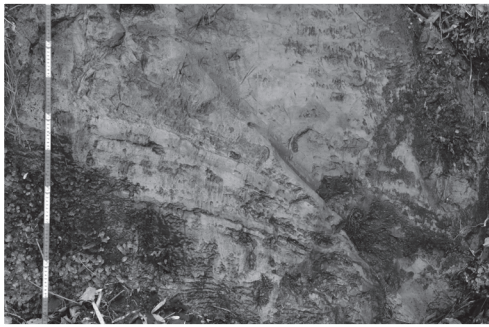
ふるさと歴訪 自然を探して

村周辺の過去の震源を探る

熊本地震に続いて今度は北海道で大地震が起こりました。7年前の東日本大震災を経験している私たちは、誰もが地震の恐ろしさを覚えています。

大地震が起こるとその震源付近には大きな断層ができます。正確には、大地にひずみが蓄積して耐えられなくなると大地が割れて(断層)そのショックで地震が起こります。

過去の大地震の記録を求めて東海村の地層の調査をすると、東海村の最も古い基盤である泥岩層(新川層)には噴砂痕や割れ目(断層)が結構多く見られます。それらはその規模からみて、震源付近でできたものではないと思われまます。新川層が堆積していた頃の茨城は、大地震が頻発し火山が噴火するなど地殻変動の激動期で、その頃できた割れ目(断層)です。それは1000万年以上前のことです。



【昔の大地震でできた押延のため池近くの断層】

元県立高等学校長

二階堂 章信

一方、300〜400万年前に堆積したとされ、同様に基盤を形成している泥岩層(村松層)には、ほとんど断層が見つかりません。ただ1か所、押延のため池近くでかなり大きな断層があり、泥岩層中の厚さ3メートル以上もある白色凝灰岩層が、この断層で途切れてしまうのです。しかし、この断層は今の地形に影響を与えていませんのでかなり古いものと思われまます。

そして東海村では、基盤の上に厚い砂礫層(見和層や額田段丘レキ層)や火山灰層、黒土などが厚く地表まで堆積しています。が、これらの地層中に断層を見つけたことはできませんでした。すなわち、12万年前以降に東海村を震源とするような大地震は起こっていないということです。しかし、今後30年以内に福島県沖、茨城県沖を震源とする大地震が起こる確率が非常に高いという警告も出ています。足元に断層ができるほどの大地震でなくとも地震は怖い。要御注意。